

利得
90
卷 8

萬葉集卷第八

長六首
短二百三十六首
旋頭四首
合二百四十六首

春雜歌

シキノミコノヨロコヒノミウタ

志貴皇子權御歌一首

鏡王女歌一首

駿河采女歌一首

尾張連歌二首

名闕

中納言阿倍廣庭卿歌一首

山部宿禰赤人歌四首



草香山歌一首

櫻花歌一首并短歌サクラハナノウタ

山部宿禰赤人歌一首

大伴坂上郎女柳歌二首

大伴宿禰三林梅歌一首

原見王歌一首アヲミノミカド

大伴宿禰村上梅歌二首ムラカミ

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

中臣朝臣武良自歌一首

河邊朝臣東人歌一首

大伴宿禰家持鸞歌一首

大藏少輔丹比屋主真人歌一首

丹比真人乙麻呂哥一首屋主真人第
二之子也

高田女王歌一首高安之女王也

大伴坂上郎女歌一首

大伴宿禰家持春鴉歌一首

大伴坂上郎女歌一首

春相聞

大伴宿禰家持贈坂上家之大嬢歌一首

大伴田村家毛大嬢與妹坂上大嬢歌一首

大伴宿禰坂上郎女歌一首

笠女郎贈大伴家持歌一首

紀女郎歌一首 名曰小鹿

天平五年癸酉

春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首

短歌

藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首

娘子和歌一首

厚見王贈父米女郎歌一首

父米女郎報贈歌一首

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

大伴家持贈和歌二首

大伴家持贈坂上大嬢歌一首

夏雜歌

藤原夫人歌一首

志貴皇子御歌一首

弓削皇子御歌一首

小治田廣瀨王霍公鳥歌一首

沙彌霍公鳥歌一首

刀理宣令歌一首

山部宿禰赤人歌一首

式部大輔石上堅魚朝臣歌一首

太宰帥大伴卿和歌一首

大伴坂上郎女思鏡紫大城山歌一首

大伴坂上郎女霍公鳥歌一首

小治田朝臣廣耳歌一首

大伴家持霍公鳥歌一首

同家持橘歌一首

同家持晚蟬歌一首

大伴書持歌二首

大伴清繩歌一首

菴君諸立歌一首

大伴坂上郎女歌一首

大伴家持唐棣花歌一首

同家持恨霍公鳥晚喧歌二首

同家持權霍公鳥歌一首

同家持惜橘花歌一首

同家持霍公鳥歌一首

同家持兩日聞霍公鳥喧歌一首

橘歌一首 遊行女婦

大伴村上橘歌一首

大伴家持霍公鳥歌二首

同家持石竹花歌一首

惜不登筑波山歌一首

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

大伴ヨワナ四繩シキミタマ宴吟ユキ歌一首

大伴坂上郎女歌一首

小治田朝臣廣耳歌一首

大伴坂上郎女歌一首

紀朝臣トヨカハ豐河トヨカハ歌一首

高安歌一首

大神女カミメノメ郎ノ贈ヲ大伴家持歌一首

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首

大伴家持オホトモ攀橘ウツク花ハナ贈坂上大嬢歌一首并短

歌

同家持贈紀女郎歌一首

秋雜歌

岡本岡仲天皇御製哥一首

大津皇子御歌一首

穗積皇子御歌一首

但馬皇子御歌一首 女冲 一云子部王作 女冲

山部王惜秋葉歌一首

長屋王歌一首

山上憶良七夕歌十二首

太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛

家歌二首

竺朝臣金持伊香山作歌二首

石川朝臣老夫歌一首

藤原宇合卿歌一首

縁達帥歌一首

山上臣憶良詠秋野花歌二首

天皇御製歌二首

太宰帥大伴卿歌二首

三原王歌一首

湯原王七夕歌二首

市原王七夕歌一首

藤原八束歌一首

大伴坂上郎女晚茅子歌一首

典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿禰

稻公跡見庄作歌一首

湯原王鳴鹿歌一首

市原王歌一首

湯原王蟋蟀歌一首

衛門大尉大伴宿禰稻公歌一首

大伴家持和歌一首

安貴王歌一首

忌部首黑麻呂歌一首

故郷豐浦寺之屋私房宴歌三首

大伴坂上郎女跡見田庄作歌二首

巫部麻蘇娘女鴈歌一首

大伴家持和哥一首

ヒ オキノナカエガムスヌノ

日置長枝娘子歌一首

大伴家持和歌一首

同家持秋歌四首

藤原朝臣八束歌二首

大伴家持白露歌一首

大伴利上歌一首

右大臣橘家宴歌七首

橘宿禰奈良丸唐仲結集宴歌十一首作者十人

大伴坂上郎女竹田庄作歌二首

佛前唱歌一首

大伴宿禰像見歌一首

大伴宿禰家持到娘子門作歌一首

同家持秋歌三首

内舍人石川朝臣廣成歌二首

大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

大原真人今城傷惜寧樂故郷歌一首

大伴宿禰家持歌一首

秋相聞

額田王思近江天皇作歌一首

鏡王女作歌一首

弓削皇王御歌一首

丹比真人歌一首 名闕

丹生女王贈太宰帥大伴卿歌一首

笠縫女王歌一首 六人部親王之女
母曰田形皇女

石川賀係女郎歌一首

賀茂女王歌一首

遠江守櫻井王奉 天皇歌一首

天皇賜報和御歌一首

笠女郎贈大伴宿禰家持歌一首

山口女王賜大伴宿禰家持歌一首

湯原王贈娘子歌一首

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

大伴坂上郎女和歌一首

巫部麻蘇娘子歌一首

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌二首

坂上大娘秋稻藁贈大伴宿禰家持歌一首

大伴宿禰家持報贈歌一首

又報脫著身衣贈家持歌一首

大伴宿禰家持攀非時藤花并茅子黃葉二

物贈坂上大嬢歌二首

同家持贈坂上大嬢歌一首并短歌

同家持贈安倍女郎秋歌一首

同家持從又邇京贈留寧樂宅坂上大嬢歌

一首

或者贈屋歌二首

尼作頭句并大伴宿禰家持所詆尼續末句

和一首

冬雜詞

舎人トネリ娘子雪歌一首

太上天皇御製歌一首

天皇御製歌一首

太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首

同郷梅歌一首

角朝臣廣辯雪梅歌一首

安倍朝臣奥道雪歌一首

若櫻部朝臣君足雪歌一首

三野連石守梅歌一首

巨勢朝臣宿奈麻呂雪歌一首

小治田朝臣東麻呂雪歌一首

忌部首黒麻呂雪歌一首

紀少鹿女郎梅歌一首

大伴宿禰家持雪梅歌一首

御在西池邊肆宴歌一首

大伴坂上郎女歌一首

池田廣津娘子梅歌一首
縣大養娘子依梅發思哥一首
大伴坂上郎女雪歌一首

冬相聞

三國真人人足歌一首
大伴坂上郎女歌一首
和歌一首

藤原皇后奉天皇御歌一首

池田廣津娘子歌一首
大伴宿禰駿河麻呂歌一首
紀少鹿女郎歌一首
大伴田村大嬢與妹坂上大娘歌一首
大伴宿禰家持歌一首

春雜詩

志貴皇子天智十七皇子權御歌一首ヨロコビノミ

石激垂見之上乃左和良妣乃毛要出春爾成イハツタタハミノウヘノサワラヒノモエイツルハルニナリニケルカモ武攝津國豐島郡垂水神社

來鴨

鏡王女歌

天武紀十二年七月天皇幸鏡姬王之家訊病

神奈備乃伊波瀨乃杜之喚子鳥痛莫鳴吾カミナヒノイハセノモリノヨフコトリイダナイキソワカコヒ益ニサレ

駿河采女歌一首

萬葉集卷八

十四

沫雪香薄太禮爾零登見左右二流倍散波何

物花其毛

尾張連歌二首 名闕

春山之開乃乎為黑爾春葉採妹之白紵見九

四與四門

打麩春來良之山際遠木末乃開往見者

中納言阿倍廣庭卿歌一首

去年春伊許自而植之吾屋外之若樹梅者花

笑爾家里

山部宿禰赤人歌四首

春野爾須美禮採爾等來師吾曾野乎奈都可

之美一夜宿二來

足比奇乃山櫻花日並而如是開有者甚戀目

衣裳

吾勢子爾今見常念之梅花其十方不所見雪

乃零有者

鳥里

手字里ノ誤開崎山ノ崎ノ夕ワミ名不ライル

風春中ヨリ人不知

安イ

古今序山部赤人

莖ツムハ衣摺ニ科ナルニ

新子春上

連日

後撰春上ヨリ人不知

ワガセコハ友ヲ云

新古今春
アスカラ
中陰書

アスヨリハワカナツマムトシメレノニキノフモケ
○從明日者春菜將採跡操之野爾昨日毛今日
モユキハフリツ
毛雪波布利管

標 非地名領置名

草香山歌一首

オシテルナニハヲスキテウチナヒクサカノアミヲユクニワカ
忍照難波乎過而打靡草香乃山乎暮晚爾吾
コエクレハヤモセニサケレシ
越來者山毛世爾咲有馬醉木乃不惡君乎何
シカユキテハヤミム
時往而早將見

名トハサヨリ男ヲサミテイフハモトヨリミテ男ヨリサヲサミテイルモホシ

右一首依作者微不顯名字

櫻花歌一首并短歌

嬌孀等之頭挿乃多米爾遊士之蕪之多米等
ヒキマセルクニノハタテニサキニケルサケラハチノニ
敷座流國乃波多豆爾開爾鷄類櫻花能丹穗

日波母安奈何

○波多豆ハハテト云ニ同シコハ廣ク國ノ極ト云ニトウユ
古事記ガホミヤノヲトツハタテ又ニヒガハタテニツクテリミユクハタテ
トハ別ナルヘシ
○アオニハアナニエヤトヨルルカクホソイルヒ

反調

コノノハルアヘリシキニニコヒニテシサヲノハチハ
去年之春相有之君爾戀爾手師櫻花者迎來
ラシモ
良之母
二ハの及カ〜トウ

右ノ長奇腕白アリテサテ春山ヨクノ越ユクフノウニナルヘシサテ及奇ニ近トハヨルナル
一ニシテラサレハ近トミトヨシナシ

右二首若宮年魚麻呂誦之

山部宿禰赤人歌一首

クタラノ、ハキノフルエニハルマツトスミシウクヒエナキニケム
百濟野乃芽古枝爾待春跡居之鸞鳴爾鷄鳴
大和十市郡植野の傍に百濟野あり

大伴坂上郎女柳歌二首

ワカ注 コカミラムサホチノアラヤキヲタヲリテタニ
吾背兒我見良牟佐保道乃青柳乎手折而谷

裳見絲欲得

打上佐保能河原之青柳者今者春部登成爾

鷄類鴨

大伴宿禰三林梅歌一首

霜雪毛未過者不思爾春日里爾梅花見都

厚見王歌一首

河津鳴甘南備河爾陰所見今哉開良武山振

乃花

大伴宿禰村上梅歌二首

含有常言之梅我枝今日零四沫雪二相而將

開可聞

霞立春日之里梅花山下風爾落許須莫湯目

緑

玉春上

新古今下

思

高田女王歌一首

高安王^{一三九}之女也

山振之咲有野邊乃都保須美禮此春之雨爾
盛柰里鷄利

サカサキノサキタルノヘノツホスミレコノハルノサメニ
サカサキノサキタルノヘノツホスミレコノハルノサメニ
萱ハ舎ノル如クハ花ナシハツホスミレトナルニ

大伴坂上郎女歌一首

ニ句ヨリ結句(カ)ル隔句(体)

風交雪者雖零實爾不成吾宅之梅乎花爾令
落莫

カセニ^{一三九}ハキハフレトモニニナラヌワキヘノウメヲハナニナラ
スナ
花ニハアハミニテ^{一三九}言^{一三九}所^{一三九}歎

大伴宿禰家持養鷄歌一首

春野爾安佐留鷄乃妻戀爾已我當乎人爾令

知管

キジノウタト^{一三九}移^{一三九}ムセシドカガ恋^{一三九}ヲソノ花^{一三九}知^{一三九}言^{一三九}所^{一三九}ナルニ

大伴坂上郎女歌一首

尋常聞者苦寸喚子鳥音奈都炊時庭成奴

右一首天平四年三月一日佐保宅作

春相聞

大伴宿禰家持贈坂上家之大嬢歌一首

吾屋外爾蒔之瞿麥何時毛花爾咲柰武名蘇

後撰我ヤノカキ
ナニウエナシレハ

拾春オノカアリガ

經乍見武

大伴田村家毛之字大嬢與妹坂上大嬢歌一首

茅花拔淺茅之原乃都保須美禮今盛有吾戀

苦波

上六序之姉妹を思ふ云

大伴宿禰坂上郎女歌一首

情具伎物爾曾有鷄類春霞多奈引時爾戀乃

繁者

笠女郎贈大伴家持歌一首

水鳥之鴨乃羽色乃春山乃於保東無毛所念

可聞

紀女郎歌一首

名曰小鹿也

闇夜有者宇倍毛不來座梅花開月夜爾伊而

麻左自常屋

天平五年癸酉春閏三月笠朝臣金村贈入

唐使歌一首并短歌

玉手次不懸時無氣緒爾吾念公者虛蟬之命

鹿大夫之妻名曰小鹿安賣王之妻也

契云虛蟬之下當百世人者者大王之二句

續紀天平四年八月以公位上多治比真人唐成爲遣唐大使以五位下中臣朝臣名代爲副使云同五年三月拜朝

カレコミユラサレハ タツノ ツニヨフナニハ カタミ ツノサキヨリオホフチニ
恐夕去者鶴之妻喚難波方三津埭從大船爾
カチレシヌキシラナミノ タカキアルミ フ レニツタヒイワカレユケハ トクニ
二椀繁貫白浪乃高荒海乎島傳伊別往者留
レルワレハ カムゲニイハヒツ、キミヲ ハ ヤラム ハロカヘリ、セ
有吾者幣引齊乍公乎者將往早還萬世
飛手 待

反歌

オミノウヘユ ミユル コ レニノ クモカクアナイキツカレ アヒワカレナハ
波上從所見兒島之雲隱尤氣衝之相別去者
タミキハルイノチニムカユヒヨリハ キミカ 一 フ子ノ カチカラモツカ
玉切命向戀從者公之三船乃椀柄母我
椀柄ハ楸ノ 握ルホモツカ

藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首

コノハナノ ヒトヨ ノ ウチニ モ、クサノ コトソ コモレル オホロ
此花乃一與能內爾百種乃言曾隱有於保呂

可爾為莫

秋サクラノ花ニ従ヒノ言ヲコノシレハカロソケニナラヒツトシニヨシヌノ山庄カエハハシキカモ
名ガミコトヨモウテカヨクツヨル美ニ一ヨハ一夜トシテハ従ナラズ一ヒラノフヲカクニ
アルヒ

娘子和歌一首

コノハナノ ヒトヨ ノ ヌチハ モ、クサノ コトモチカ子テ ヲラレ
此花乃一與能裏波百種乃言持不勝而所折
ケラ スヤ 花ニヒラノ中ニ従ヒノ言ヲコノシレハ得タヘスシテ其百種ノ言ニ折ラレシ花ニハアラズヤ
家良受也

厚見王贈久米女郎歌一首

ヤ トニアルサクラノハナハ イマモ カモ マツカセハヤミツチニ ナルラム
屋戸在櫻花者今毛香聞松風疾地爾落良武

久米女郎報贈歌一首

ヨノナカモ ツ子ニ ニ アラ子 ハヤ トニ アルサクラノハナノ ナレル
世間毛常爾師不有者屋戸爾有櫻花乃不所

比日可聞

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

戲奴和氣之為吾手母須麻爾春野爾拔流茅

花曾御食而肥座

晝者咲夜者戀宿合歡木花君耳將見哉和氣

佐倍爾見代

右折攀合歡花并茅花贈也

大伴家持贈和歌二首

吾君爾戲奴者戀良思給有茅花乎雖喫彌瘦

爾夜須

吾妹子之形見乃合歡木者花耳爾咲而蓋寶

爾不成鴨

大伴家持贈坂上大嬢歌一首

春霞輕引山乃隔者妹爾不相而月曾經爾來

右從父邇京贈寧樂宅

夏雜歌

卷四十四 吾君 者和氣字改 凡常

家持ハラワケトイヤシメテタハフレイル初ラウケテ其ワケトノ玉フ家ハト云云

契云云改及卷十六可流羽須取田乃毛等亦云細房者多二の及と云云田彦此云田夫世と云云はの信はよ及と云云と云云

藤原夫人歌 以下活本元 明日香清御原宮御宇天皇之

田部皇子 之母也

霍公鳥痛莫鳴汝音乎五月玉爾相貫左右二

志貴皇子御歌一首

神名火乃磐瀨乃杜之霍公鳥毛無乃岳爾何

時來將鳴

弓削皇子御歌一首

霍公鳥無流國爾毛去而師香其鳴音乎聞者

辛苦母

小治田廣瀨王霍公鳥歌一首

霍公鳥音聞小野乃秋風菖開禮也聲之乏寸

沙彌霍公鳥詞一首

足引之山霍公鳥汝鳴者家有妹常所思

刀理宣令歌一首

物部乃石瀨之杜乃霍公鳥今毛鳴奴山之常

影爾

常影ハたをた山ノタワミタル処ヲたもとモタワトミ云

山部宿禰赤人歌一首

戀之家婆形見爾將為跡吾屋戸爾殖之藤浪

今開爾家里

式部大輔石上堅魚朝臣歌一首

霍公鳥來鳴令響宇乃花能共也來之登問麻

思物乎

右神龜五年戊辰太宰帥大伴卿之妻大伴

郎女遇病長逝焉于時勅使式部大輔石

上朝臣堅魚遣太宰府弔喪并贈物色其事

既畢驛使乃府諸卿大夫等共登記夷城而

望遊之日乃作此歌

太宰帥大伴卿和歌一首

橘之花散里乃霍公鳥斤戀為乍鳴日四曾多

寸

大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首

今毛可聞大城乃山爾霍公鳥鳴令響良武吾

無禮好毛

大伴坂上郎女霍公鳥歌一首

何哥毛幾許戀流霍公鳥鳴音聞者戀許曾益

禮

小治田朝臣廣耳歌一首

獨居而物念夕爾霍公鳥從此間鳴渡心四有

良思

大伴家持霍公鳥歌一首

宇能花毛未開者霍公鳥佐保乃山邊來鳴令

響

大伴家持橘歌一首

吾屋前之花橘乃何時毛珠貫倍久其實成奈

武

大伴家持晚蟬歌一首

隱耳居者鬱悵奈具左武登出立聞者來鳴日

晚

大伴書持歌二首

ワカヤ トニ ツキオシテレリ ホト、キスコ、ロアルコ ヨヒキ ナキトヨ
我屋戸爾月押照有霍公鳥心有今夜來鳴令

響

ワカヤ トノ ハナタキナニ ホト、キスイ、コソナカメ トモニ アヘル
我屋前乃花橘爾霍公鳥今社鳴米友爾相流

時

大伴清繩歌一首

三ナヒトノ マチニ ウノ ハナチキイトナ クホト、キスワレワスレヌ
昔人之待師宇能花雖落奈久霍公鳥吾將忘

哉

庵君諸立歌一首

ワカセ コカヤ トノ タキナナラ ヨ ミ ナクホト、キスミニソ
吾背子之屋戸乃橘花乎吉美鳴霍公鳥見曾

吾來之

大伴坂上郎女歌一首

ホト、キスイ、タナ ナキンヒトナ テイノ 子ラ エヌニキケガ クルレモ
霍公鳥痛莫鳴獨居而寐乃不所宿聞者苦毛

大伴家持唐棣花歌一首

ナツマテテ サキタルハ 子 ス ヒサカタノ アメウチフラハ ウツロヒナムカ
夏儲而開有波禰受久方乃雨打零者將移香

大伴家持恨霍公鳥晚喧歌二首

日本紀世九十五年
明位以下進位以
上之朝服也詩
位已上並未並
此世

萬葉集卷八
二六

ワカヤトノ ハナタキハナラホト、キスキナカテツチニ
吾屋前之花橘乎、霍公鳥來不喧地爾令落常

香

ホト、キスオモハスアハキコノクレノカクナルマテニナトカ
霍公鳥不念有寸木晚乃如此成左右爾奈何

不來喧

大伴家持權霍公鳥歌一首

イツゴカハナキモ、ニニケムホトマキスワキヘノサトニケ
何憂者鳴毛思仁家武霍公鳥吾家乃里爾今

日耳曾鳴

大伴家持惜橘花歌一首

ワカヤトノハナタキハナラホト、キスキナカテツチニ
吾屋前之花橘者落適而珠爾可也實爾成二

家利

大伴家持霍公鳥歌一首

ホト、キスマテトキナカヌアヤクサタニニヌクヒヲイタトホニ
霍公鳥雖待不來喧蒲草玉爾貫日乎未遠美

香

大伴家持兩日聞霍公鳥喧歌一首

ワノハナノスキバシレミカホト、キスアマモオカスココ
字乃花能過者惜香霍公鳥兩間毛不置從此

間喧渡

過官

橘歌一首 遊行女婦

君家乃花橘者成爾家利花乃有時爾相益物乎
キミカイヘノハナタチハナナリニケケリハナノサカリニアハマシモノ

大伴村上橘歌一首

吾屋前乃花橘乎霍公鳥來鳴令動而本爾令散都
ワカヤトノハナタチハナラホト、キスキナキトヨメテモトニキラ

大伴家持霍公鳥歌二首

夏山之木末乃繁爾霍公鳥鳴響奈流聲之遙
ナツヤマノコノスエノミツニホト、キスキトヨムナルコエノハルケ

佐

足引乃許乃間立八十一霍公鳥如此聞始而
アシヒキノコノマタチク、ホト、キス、カクキ、ソメテ

後將戀可聞
ノチコヒムカモ

大伴家持石竹花歌一首

吾屋前之瞿麥乃花盛有手折而一目令見兒
ワカヤトノナテシコノハナチカリナリタラリテヒトメミセムコ

毛我母
モカモ

惜不登筑波山歌一首

筑波根爾吾行利世波霍公鳥山妣兒令響鳴
ツクハ子ニワカユケリ世ハホト、キス、ヤマヒコトヨメナカ

足引乃枕詞
山ノトセリ

萬葉集卷八

麻志也其

ナキセジシ ソレトホホトキスヲサス

右一首高橋連蟲麻呂之歌中出

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

イ上ナキコサリニキニニホトキスワレカクコフトユキテツケ
無暇不來之君爾霍公鳥吾如此戀常往而告

社

大伴四繩宴吟歌一首

コトニキニキニハキマサスホトキスナレタニキナケアサトヒラ
事繁君者不來益霍公鳥汝太爾來鳴朝戸將

開

大伴坂上郎女歌一首

ナツノノ、ニケニニサケルヒメユリノシラレヌコヒハクルヒキ
夏野乃繁見丹開有姫由理乃不所知戀者誓

物乎 モノヲ 當申作何

ヒメハスベチウラクシクナヒサキ物ニイフナシ

小治田朝臣廣耳歌一首

ホトキスナツシノウヘノウノハナノウキコトアルヤキニカ
霍公鳥鳴峯乃上能字乃花之狀事有哉君之

不來益 キニサヌ 上六序

大伴坂上郎女歌一首

五月之花橘乎為君珠爾貫零卷惜美

紀朝臣豐河歌一首

ワキモ コカ ヤトノ カキツノ サユリ ハナユリ トレイハバ
吾妹兒之家乃垣内乃佐由理花由利登云者

不謂云二似

六序ノカキツノ如字垣内ニ
集中ニ後ニ云フヨリトイハル俗コレカレアリ歟モ後ニ云フ
銜子 銜句ウニクハ解カシキウニ

高安歌一首

イトニナキナ ツキヲ ヒサニ ワキモ コカ ハナタキハナラミ スカ スカ
暇無五月乎尚爾吾妹兒我花橘乎不見可將

過

大神女郎贈大伴家持歌一首

霍公鳥鳴之登時君之家爾往跡追者將至鴨

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首

舌郷之奈良思之岳能霍公鳥言告遣之何如

告寸八

大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首并短

歌

伊加登伊可等有吾屋前爾百枝刺於布流橘
玉爾貫五月乎近美安要奴我爾花咲爾家里

古中

朝爾食爾出見每氣緒爾吾念妹爾銅鏡清月
夜爾直一眼令靚麻而爾波落許須奈由米登
云管幾許吾守物乎宇禮多伎也志許霍公鳥
曉之裏悲爾雖追雖追尚來鳴而徒地爾令散
者為便乎奈羨攀而手折都見末世吾妹兒

反歌

望降清月夜爾吾妹兒爾令靚常念之屋前之
榻

妹之見而後毛將鳴霍公鳥花橘乎地爾落津

大伴家持贈紀郎女作歌一首

瞿麥者咲而落去常人者雖言吾標之野乃花

爾有目八方

秋雜歌

崗本天皇御製歌一首

暮去者小倉乃山爾鳴鹿之今夜波不鳴寐宿
家良思母

大津皇子御歌一首

夕テモ ナク又キモ サタメスヲトメラカ
經毛無緯毛不定未通女等之織黃葉爾霜相莫
零

穗積皇子御歌二首

今朝之日開駕之鳴聞都春日山黃葉家良思
吾情痛之

秋茅者可咲有良之吾屋戸之淺茅之花乃散

但馬皇子御歌一首

事繁里爾下住者今朝鳴之駕爾副而去益物
乎 一云國爾不有者

山部王惜秋葉歌一首

秋山爾黃反木葉乃移去者更哉秋乎欲見世
武

長屋王歌一首

味酒三輪乃祝之山照秋乃黃葉散莫惜毛

山上臣憶良七夕歌十二首

天上臣憶良七夕歌十二首
天漢相向立而吾戀之君來益奈利紉解設柰

一云向河

右養老八年七月七日應令

久方之漢瀨爾船泛而今夜可君之我許來益武

右神龜元年七月七日夜左大臣家

牽牛者織女等天地之別時由伊柰宇之呂河

向立意空不安久爾嘆空不安久爾青浪爾望

者多要奴白雲爾涕者盡奴如是耳也伊伎都

枳乎良牟如是耳也戀都追安良牟佐丹塗之

小船毛賀茂玉纏之真可伊毛我母

朝柰藝爾伊可伎渡夕蓋爾

久方之天河原爾天飛也領巾可多思吉真玉

手乃玉手指更餘宿毛寐而師可聞

加秋爾安良受登母 一云秋不待登毛

反歌

一本漢上白天字元瀨字

七

元正紀養老七年九月神龜元年二月改号神龜

カハニムカヒ

ヒサカタノアノカハセニ フ子ウケテコ ヨヒカ キミカワ ガリキ ミサム

ヒコ ホレハ タナバタツメト アメツチノ ワカレトキユ イナ ヲムシロ カハニ

ムキタキオモフヲラヤスカラチク ニ ナケクソラヤスカラチク アラナニニ

キヲ ラムカクノミヤ コイツ、 アラムサニヌリノ

フ子モ カモ タニニキノ ニカ イモカモ

アサナキニイカキ ワタリニフシホニ

ヒサカタノアノガハラニ アイトフヤヒ

テノタマテサシカハヨイモ子テシカモ

アキニ アラストモ

萬葉集卷八

三十一

カセクモハ フツノキニ カヨヘトモ ワカトホツニ
風雲者二岸爾可欲倍杼母吾遠孀之一云波乃
事曾不通

タブテニモ ナゲコシツヘキ アノカハヘタ テレハカ
多夫手二毛投越都倍伎天漢做太而禮婆可
母安麻多須辨奈吉 タラテ 飛碌 ケツテトイリ

右天平元年七月七日夜憶良仰觀天河一作云

帥沖師家

アキカセノ フキニシヒヨリイツシカトワカニチコヒニ キミツ
秋風之吹爾之日從何時可登吾待戀之君曾
來座流

アノカハイトカハナニハタチトモウカヒカタニチカキコノ
天漢伊刀河浪者多多禰杼母伺候難之近此

瀬乎

ソテフラバミモカハレツヘクチカケレトワタルスヘナシアキ
袖振者見毛可波之都倍父雖近度為便無秋

西安良禰波

カケロツノホノカニニエテワカレナハモトナヤコヒムアフ
玉蜻蜒髻髻所見而別去者毛等奈也戀牟相
時麻而波

右天平二年七月八日夜帥家集會

ヒコホシノツムカヘフ子コキイツラレアノカハラニキリノタニレハ
牽牛之迎孀船已藝出良之漢原爾霧之立波

霞立天河原爾待君登伊往還程爾裳襪所沾
天河浮津之浪音佐和久奈里吾待君思舟出
為良之母

太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛

家歌二首

娘部思秋茅子交蘆城野今日乎始而萬代爾
將見

珠匣葦木乃河乎今日見者迄萬代將忘八方

右二首作者未詳

笠朝臣金村伊香山作歌二首

草枕客行人毛往觸者爾保比奴倍又毛開流

茅子香聞

伊香山野邊爾開有茅子見者公之家有尾花
之所念

石川朝臣者夫歌一首

娘部志秋茅子折禮玉梓乃道去褻跡為乞兒

藤原宇合卿歌一首

オトモセバカシ
聲をせ者將見秋風吹

ワカセ コヲ イツヅイニカト ミツナヘニ オモ ヤハ ミエ
我背兒乎何時曾且今登待苗爾於毛也者將
見秋風吹

縁達師諷一首

ヨニニマヒテアアナカホハカクハノ古語

暮相而朝面羞隱野乃茅子者散去寸黃葉早
續也

山上臣憶良詠秋野花二首

秋野爾咲有花乎指折可伎數者七種花其一

茅之花乎花葛花瞿麥之花姐部志又藤袴朝
貌之花其二

天皇御製歌二首

秋田乃穗田乎鴈之鳴聞爾夜之穗杆呂爾毛

鳴渡可聞

今朝乃且開鴈之鳴寒聞之奈倍野邊能淺茅
魯色付丹來

太宰帥大伴卿歌二首

ワカヲカニ サフ シカキナクハツルキノ ハナツミトヒニ キナクサ

吾岳爾棹牡鹿來鳴先茅之花孀問爾來鳴棹

ラ シカ ○サキハ初芽子物ハコトナレドサイバトリイヘルモサキニ同シハギノサクココ鹿ノソハギ存ニナル

牡鹿

モナレハハギヨ鹿ノツトシテ花ツミトハイリ

吾岳之秋茅花風乎痛可落成將見人裳欲得

三原王歌一首

秋露者移爾有家里水鳥乃青羽乃山能色付

見者

湯原王七夕歌二首

牽牛之念座良武從情見吾辛苦夜之更降去

者

織女之袖續三更之五更者河瀨之鶴者不鳴

友吉

市原王七夕歌一首

妹許登吾去道乃河有者附目緘結跡夜更降

家類

藤原朝臣八束歌一首

棹四香能茅二貫置有露之白珠相佐和仁誰

後直楠ト云テ藤原朝臣

物言ニオササフト云テアリコレヲサワノ説レル

人可毛手爾將卷知布

大伴坂上郎女晚茅子歌一首

咲花毛宇都呂波狀與手有長意爾尚不如家

里奥年ハ歌稿ヲカクテト云如ク世子ノ花サクガオンキヲ云フ

典鑄正紀朝臣鹿入至衛門大尉大伴宿禰

稻公跡見庄作歌一首

射目立而跡見乃岳邊之瞿麥花總手折吾者

將去寧樂人之為

湯原王鳴鹿歌一首

秋茅之落乃亂爾呼立而鳴奈流鹿之音遥者

市原王歌一首

待時而落鐘禮能雨令零叔朝香山之將黃蘗

湯原王蟋蟀歌一首

暮月夜心毛思努爾白露乃置此庭爾蟋蟀鳴

毛

衛門大尉大伴宿禰稻公歌一首

鐘禮能雨無間零者三笠山木末歷色附爾家
里

大伴家持和歌一首

星之御笠乃山能黃葉今日之鐘禮爾散香過
奈牟

安貴王歌一首

秋立而幾日毛不有者此宿流朝開之風者手
本寒母

忌部首黑麻呂歌一首

秋田蒨借廬毛未壤者鴈鳴寒霜毛置奴我二

故卿豐浦寺之尼私房宴歌三首

明日香河迤回岳之秋茅子者今日零雨爾落

香過奈牟

右一首丹比真人國人

鶉鳴古鄉之秋茅子乎思人共相見都流可聞
秋茅子者盛過乎徒爾頭刺不搖還去牟跡哉

壞

右二首沙彌左等

大伴坂上郎女跡見田庄作歌二首

妹目乎始見之埒乃秋茅子者此目其吕波落

許須莫湯目

古名張乃猪養山爾伏鹿之孀呼音乎聞之登

聞思佐

巫部麻蘇娘子鴈歌一首

誰聞都從此間鳴渡鴈鳴乃孀呼音乃之知左

寸

大伴家持和歌一首

聞津哉登妹之問勢流鴈鳴者真毛遠雲隱奈

利

日置長枝娘子歌一首

秋付者尾花我上爾置露乃應消毛吾者所念

香聞

大伴家持和歌一首

ワカヤトヒトムラハキヲオモフコニニニセテホトクチラセ
吾屋戸乃一村茅子也念兒爾不令見殆令散
ツルカモ

大伴家持秋歌四首

久堅之雨間毛不置雲隱鳴曾去奈流早田鴈
カ子

之哭

雲隱鳴奈流鴈乃去而將居秋田之穗立繁之
イホノホノミナキル云
以上序ナリ

所念

雨隱情辭悵出見者春日山者色付二家利

雨晴而清照有此月夜又更而雲勿田菜引

右四首天平八年丙子秋九月作

藤原朝臣八束歌二首

此間在而春日也何處雨障出而不行者戀乍

曾乎流

春日野爾鐘禮零所見明日從者黃葉頭刺牟

高圓乃山

大伴家持白露歌一首

ワカヤトノヲハチカウヘノレラツユヲケタステタニニ又ク
吾屋戸乃草花上之白露乎不令消而玉爾貫
モノニモカ
物爾毛我

大伴利上歌一首

アキノアメニヌレソノブレハイヤレケドワキモカヤトレオモ
秋之雨爾所沾乍居者雖賤吾妹之屋戸志所

念香聞

右大臣橘家宴歌七首

クモノウヘニナクナルカリノトホケトキニアハムトタモトホリキツム
雲上爾鳴奈流鴈之雖遠君將相跡手回來津
タモノウヘニナキツルカリノサムキナハハキノレタハ、ウツハム
雲上爾鳴都流鴈乃寒苗芽子乃下葉者黃變

可毛

右二首

作者名落

ウカネラヒハウカヒヒネラフニ十ウカネ、窺良布。跡見當ノニニ四句可考
コノヲカニラシレカフミオシシカ子ヲヒカモカクス
此岳爾小牡鹿履起宇加涅良比可聞可開為
ラクキミユヘニココソ
良久君故爾許曾

右一首長門守臣曾倍朝臣津島

アキノ、ヲハナカスエヲオレナハテココレクモレルクアヘ
秋野之草花我末乎押靡而來之久毛知久相
ルキミカモ
流君可聞

アサチイロツキ
今朝鳴而行之鴈鳴寒可聞此野乃淺藁色付

爾家類

右二首阿倍朝臣蟲麻呂

朝扉開而物念時爾白露乃置有秋茅子所見

喚鷄本名

棹牡鹿之來立鳴野之秋茅子者露霜負而落

去之物乎

右二首文忌寸馬養

天平十年戊寅秋八月二十日

橘朝臣奈良麻呂結集宴歌十一首

不手折而落者惜常我念之秋黃葉乎挿頭鶴

鴨

布將見人爾今見跡黃葉乎手折曾我來師兩

零久仁

右二首橘朝臣奈良麻呂

黃葉乎令落鐘禮爾所沾而來而君之黃葉乎

挿頭鶴鴨

右一首久米女王

布將見跡吾念君者秋山始黃葉爾似許曾有
家禮

右一首長忌寸娘

平山乃峯之黃葉取者落鐘禮能雨師無間零
良志

右一首内舍人縣犬養宿禰吉男

黃葉乎落卷惜見手折來而今夜挿頭津何物

可將念

右一首縣犬養宿禰持男

足引乃山之黃葉今夜毛加浮去良武山河之
瀬爾

右一首大伴宿禰書持

平山乎令丹黃葉手折來而今夜挿頭都落者
雖落

右一首之手代人名

露霜爾逢有黃葉乎手折來而妹挿頭都後者
落十方

右一首秦許遍麻呂

十月鐘禮爾相有黃葉乃吹者將落風之隨

右一首大伴宿禰池主

黃葉乃過麻久惜美思共遊今夜者不開毛有

奴香

右一首内舎人大伴宿禰家持

以前冬十月十七日集於右大臣橘郷之舊

宅宴飲也

大伴坂上郎女竹田庄作歌二首

然不有五百代小田乎劫亂田廬爾居者京師

所念

隱口乃始瀨山者色附奴鐘禮乃雨者零爾家

良思母

右天平十一年己卯秋九月作

佛前唱歌一首

思具禮能雨無間莫零紅爾丹保敞流山之落

卷惜毛

右冬十月皇后官之維摩講終日供養大唐

高麗等種種音樂爾乃唱此詞詞彈琴者市

原王忍坂王後賜姓大原真人赤麻呂也歌子者田口朝

臣家守河邊朝臣東人置始連長谷等十數

人也

大伴宿禰像見歌一首

秋茅子乃枝毛十尾二降露乃消者雖消色出

目八方

大伴宿禰家持到娘子門作歌一首

妹家之門田乎見跡打出來之情毛知夕照月

夜鴨

大伴宿禰家持秋歌三首

秋野爾開流秋茅子秋風爾靡流上爾秋露置

有

サヲレカノアサタツノヘノアキハキニタマトミルミテ
棹牡鹿之朝立野邊乃秋茅子爾玉跡見左右
オケルレラツコ
置有白露

サヲレカノム子ワケニモアキハキノチリスキニケル
狹尾牡鹿乃曾別爾可毛秋茅子乃散過鷄類
サカリカモイヌル
盛可毛行流
ホミヤシノ年々和氣ゆくとナリ

右天平十五年癸未秋八月見物色作

内舍人石川朝臣廣成歌二首

ツミコヒニシカナクヤミベノアキハキハツユシモサムサカリス
妻戀爾鹿鳴山邊之秋茅子者露霜相寒盛須疑

由君

メツラシキキミカイヘナルハナス、キホニイツルアキノスギラ
目頗布君之家有波奈須為寸穗出秋乃過良
クヲシモ
父惜母

大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

ヤマヒコノアヒトヨムテツミコヒニシカナクヤマヘニヒトリノミ
山妣姑乃相響左右妻戀爾鹿鳴山邊爾獨耳

為手

コノコロノアサケニキケハアヒヒキノヤマヲト
頃者之朝開爾聞者足日木篁山乎令響狹尾

牡鹿鳴哭

右二首天平十五年癸未八月十六日作

大原真人穂積親王子今城傷惜寧樂故卿歌一首

秋去者春日山之黃葉見流寧樂乃京師乃荒

良久惜毛

大伴宿禰家持歌一首

高圓之野邊乃秋茅子比日之曉露爾開葉可聞

秋相聞

額田王女思近江天皇作歌一首

君待跡吾戀居者我屋戸乃簾令動秋之風吹

鏡王女作歌一首

風乎谷戀者乏風乎谷將來常思待者何如將

嘆

弓削皇子御歌一首

秋茅子之上爾置有白露乃消可毛思奈萬思

戀管不有者

丹比真人歌一首 名關

宇陀乃野之秋菘子師弩藝鳴鹿毛妻爾戀樂
皆我者不益
ワレニハミサレ
一キ集ニエギワルヲトヨノルハコニカナル葉ノアハヒニテフリルヨ云

丹生女王贈太宰帥大伴卿歌一首

高圓之秋野上乃瞿麥之花于壯香見人之挿

頭師瞿麥之花

笠縫女王歌一首

足日本乃山下響鳴鹿之事之可母吾情都未

石川賀係女郎歌一首

神佐夫等不許者不有秋草乃結之紉乎解者

悲哭

賀茂女王歌一首

秋野乎且往鹿乃跡毛奈久念之君爾相有今

夜香

右歌或云掠橋部女王或云笠縫女王作

遠江守櫻井王奉 天皇歌一首

九月之其始鴈乃使爾毛念心者可聞來奴鴨

天皇賜報和御歌一首 聖武 六序

大乃浦之其長濱爾縁流浪寛公平念比日

笠女郎賜大伴宿禰家持歌一首

每朝吾見屋戸乃瞿麥之花爾毛君波有許世

奴香裳

山口女王賜大伴宿禰家持歌一首

秋茅子爾置有露乃風吹而落淚者留不勝都

毛

湯原王賜娘子歌一首

玉爾貫不令消賜良牟秋茅子乃宇禮和和良

葉爾置有白露

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

玉梓乃道者雖遠愛哉師妹乎相見爾出而曾

吾來之

大伴坂上郎女和歌一首

荒玉之月立左右二來不益者夢西見乍思曾

ワカセシ
吾勢思

右二首天平十一年己卯秋八月作

巫部麻蘇娘子歌一首

ワカヤトノハキノハナサケリミニキマセイマフツカハカアアラハ
吾屋前乃茅子花咲有見來益今二日許有者

千リナム
將落

大伴田村大嬢與坂上大嬢歌二首

ワカヤトノアキノハキサクユフカケニイマモミテレカイモ
吾屋戸乃秋之茅子開夕影爾今毛見師香妹

カスカタラ
之光儀乎

ワカヤトニモミツルカヘテミルコトニイモヲカケツユヒヌハ
吾屋戸爾黃變蝦手每見妹乎懸管不戀日者

ナシ
無

坂上大嬢秋稻蘊贈大伴宿禰家持歌一首

ワカヤトノワサタノホカ行ツクリタルカツラソミツレハ
吾之蔣有早田之穗立造有蘊曾見乍師弩波

世ワカセ
世吾背

大伴宿禰家持報贈歌一首

ワキモコガワサトツクレルアキノタノワサホノカシラミレトアカヌ
吾妹兒之業跡造有秋田早穗乃蘊雖見不飽

カモ
可聞

又報脫著身衣官夜贈家持歌一首
秋風之寒比日下爾將服妹之形見跡可都毛
思努播武

右三首天平十一年己卯秋九月往來

大伴宿禰家持攀非時藤花并茅子黃葉二

物贈坂上大嬢嬢官歌二首

吾屋戶之前官非時藤之目頰布今毛見牡鹿妹之

笑容乎

吾屋前之茅子乃下葉者秋風毛未吹者如此

曾毛美照

右二首天平十二年庚辰夏六月往來

大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌一首并短歌

即物乎念者將言為便將為為便毛奈之妹

與吾手携拂而旦者庭爾出立夕者床打拂白

細乃袖指代而佐寐之夜也常爾有家類足日

木能山鳥許曾婆峯向爾孀問為云打蟬乃人

ナルワレヤ ナニ ス ト カ ヒトヒ ヒトヨ モ ハナレ井 テ ナキコノ
有我哉如何為跡可一日一夜毛離居而嘆戀
ラム ココ オモハハ ハナコソ イタメソノユエニ コノロナ グヤト
良武許已念者胸許曾痛其故爾情奈具夜登
タカマトノ ヤニモ ノニモ ウチユキテ アソキユネド ハナノニ
高圓乃山爾毛野爾每打行而遊往村花耳丹
ホヒ テアレハ ミルコトニマレテ オモホユイカニ テ ワスルモノソ
穗日手有者每見益而所思奈何為而忘物曾
コヒトイフモノヲ
戀云物乎

反歌

タカマトノノヘノノ カホハナオモカケニ ミ エ シ、イモハ ワスレカ
高圓之野邊乃容花面影爾所見乍妹者忘不
子ツモ
勝裳

大伴宿禰家持贈安倍女郎歌一首

イニツルクニ ニ ニ ニ アキヨノ オカキニ ヒト又ルカ クルレサ
今造久邇能京爾秋夜乃長爾獨宿之苦左

大伴宿禰家持從久邇京贈留寧樂宅坂上

大娘歌一首

アヒヒ キ ノ ヤニヘ ニ フリテ アキカセノ ヒニケニ ケハ イモヲ
足日木乃山邊爾居而秋風之日異吹者妹乎
レソノオモフ
之曾念

或者贈尼歌二首

テモ ス マ ニ ウエレ ハ キ ニ ヤ カ リ ラ ハ ミ ト ミ チ カ ヌ コ ロ
手毋須麻爾殖之茅子爾也還者雖見不飽情

ツラサム
將盡

衣手爾水澁付左右殖之田乎引板吾波倍真
守有栗子

尼作頭句并大伴宿禰家持所詆足續末句

等和歌一首

保佐河之水乎塞上而殖之田乎 尼作 荊流早

飯者獨奈流倍思 家持續

冬雜歌

舍人娘子雪歌一首

大口能真神之原爾零雪者甚莫零家母不有

國

太上天皇御製歌一首

波太須珠才尾花逆耳黒木用造有室者迄萬

代

天皇御製歌一首

青丹吉柰良乃山有黒木用造有室戸者雖居

座不飽可聞

右聞之御在左大臣長屋王佐保宅肆宴御

製

太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首

春待集
アウケキノホトロホトロニフリレケハナラノニヤコレオモホレ
沫雪保杼呂保杼呂爾零敷者平城京師所念

可聞

太宰帥大伴卿梅歌一首

今雪ニト云ハナキ
ワカフカニサカリニサケルウタハナノコレルユキノ一カハツルカモ
吾岳爾盛開有梅花遺有雪乎亂鷓鴣

角朝臣廣辨雪梅歌一首

アハユキニ
フラレテサケルウタハナキニカイヤラハヨソヘテ
沫雪爾所落開有梅花君之許遣者與曾倍豆

牟可聞

安倍朝臣奥道雪歌一首

タナキリアヒユキモ
フラヌカウタハナサカヌガカハニソ
棚霧合雪毛零奴可梅花不開之代爾曾倍而

谷將見

若櫻部朝臣君足雪歌一首

アモキリユキモ
フラヌカイチヒロクコノイツレハニフラミクヲニ
天霧之雪毛零奴可炊然此五柴爾零卷乎將

見

三野連石守梅歌一首

紅梅

ヒキヨチテ フラハ キルヘクダスハナソテニ コキイレツ ソミハ ソム
引攀而折者可落梅花袖爾古寸入津染者雖

染

巨勢朝臣宿柰府呂雪歌一首

ワカヤ トノ フキノ シヘニ フルユキヲ ウメノハナカ ト ヲキニ
吾屋前之冬木乃上爾零雪乎梅花香常打見

都流香裳

小治田朝臣東麻呂雪歌一首

ヌハ ハマノ コヨヒノ ユキニ イサヌレナ アケム アレタニ
夜千玉乃今夜之雪爾率所沾名將開朝爾消

者惜家牟

忌部首黑麻呂雪歌一首

ウツノ ハナエタニ カ キルト ミルマ テニ カセニ ミタシテ ユキヲ
梅花枝爾可散登見左右二風爾亂而雪曾落

久類

紀少鹿女郎梅歌一首

レハ スニハ アユキフルト シラヌカモ メノナサクツホメラ
十二月爾者沫雪零跡不知可毛梅花開含不

有而

大伴宿禰家持雪梅歌一首

ケフフリレ ユキニ キホヒテ ワカヤト ノ フユキノウメハ ハナガキ
今日零之雪爾競而我屋前之冬木梅者花開
ニケリ
二家里

御在西池邊肆宴歌一首

イタノミツノ スエハニ フユキハ イホヘ フリレトアス
池邊乃松之末葉爾零雪者五百重零敷明日
サヘモミム
左倍母將見

右一首作者未詳但豎子阿倍朝臣蟲麻呂

傳誦之

大伴坂上郎女歌一首

アムニキノ ヒナヘエ ツキテ カク フレム ウメノハツハナチリカ スキナム
沫雪乃比日續而如此落者梅始花散香過南

池田廣津娘子梅歌一首

ウメノハナツリモ オラスモ ミツツレトモ コヨヒノ ハナニ ナオ
梅花折毛不折毛見都禮杆母今夜能花爾尚
シカズケリ
不如家利

縣犬養娘子依梅發思歌一首

イノコトコロヲ ツ子ニモモヘラ ハ マツサクハナノ ツチニ オキメヤ
如今心乎常爾念有者先咲花乃地爾將落八
友

大伴坂上郎女雪歌一首

松影乃淺茅之上乃白雪乎不令消將置言者
可聞奈吉

冬相聞

三國真人人足歌一首

高山之菅葉之努藝零雪之消跡可日毛戀乃
繁鷓鴣

大伴坂上郎女歌一首

酒杯爾梅花浮念共飲而後者落去登母與之

和歌一首

官爾毛縱賜有今夜耳將飲酒可毛散許須奈
由米

右酒者官禁制併京中間里不得集宴但親

親一二飲樂聽許者緣此和人作此發句焉

藤原后奉 天皇御歌一首

吾背兒與二有見麻世波幾許香此零雪之權

有麻思

池田廣津娘子歌一首

真木乃於上ウヘニ零置有雪乃ユキノ敷布毛オモホユルカ所念可聞モ佐

夜問吾背

ヨトブワカセ 佐夜問可考

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

梅花令落冬風音耳聞之吾妹乎見良父志吉

裳

紀少鹿女郎歌一首

父方乃月夜乎清美梅花心開而吾念有公

大伴田村大娘與妹坂上大娘歌一首

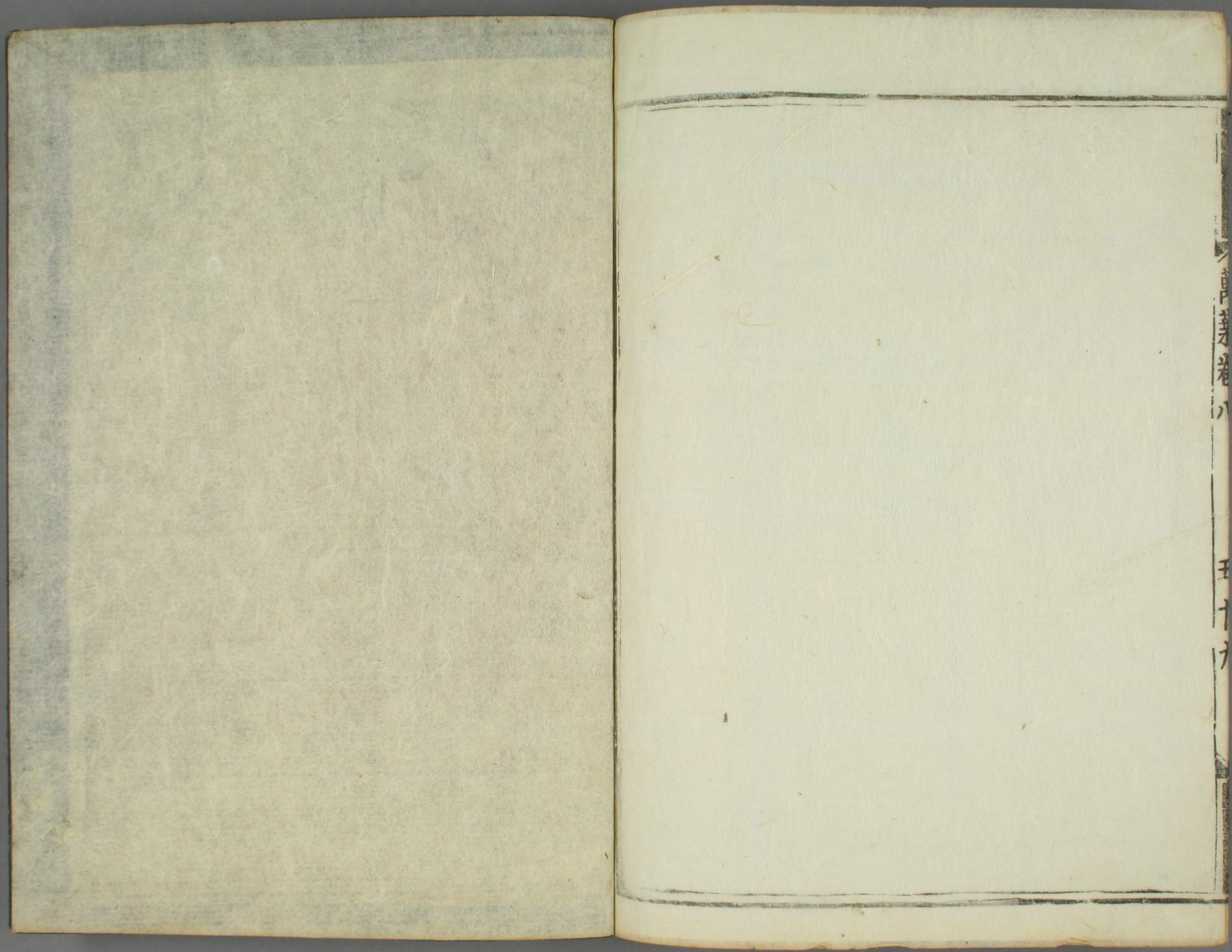
沫雪之可消物乎至今流經者妹爾相曾

大伴宿禰家持歌一首

沫雪乃庭爾零敷寒夜乎手枕不纏一香聞

將商

萬葉集卷第八



卷八

五十七

